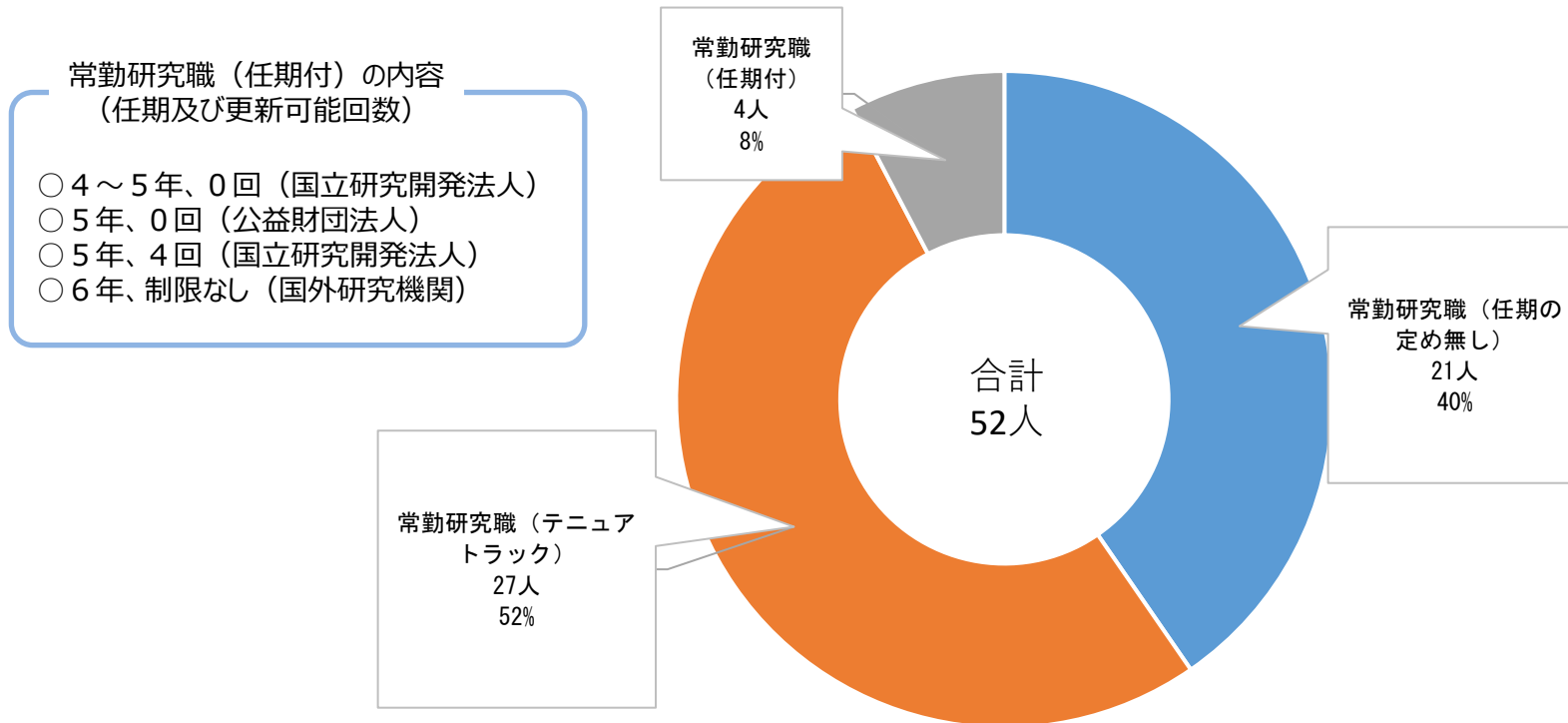


平成30年度卓越研究員事業に申請し、卓越研究員となった者に対して、研究活動状況等について追跡調査を実施

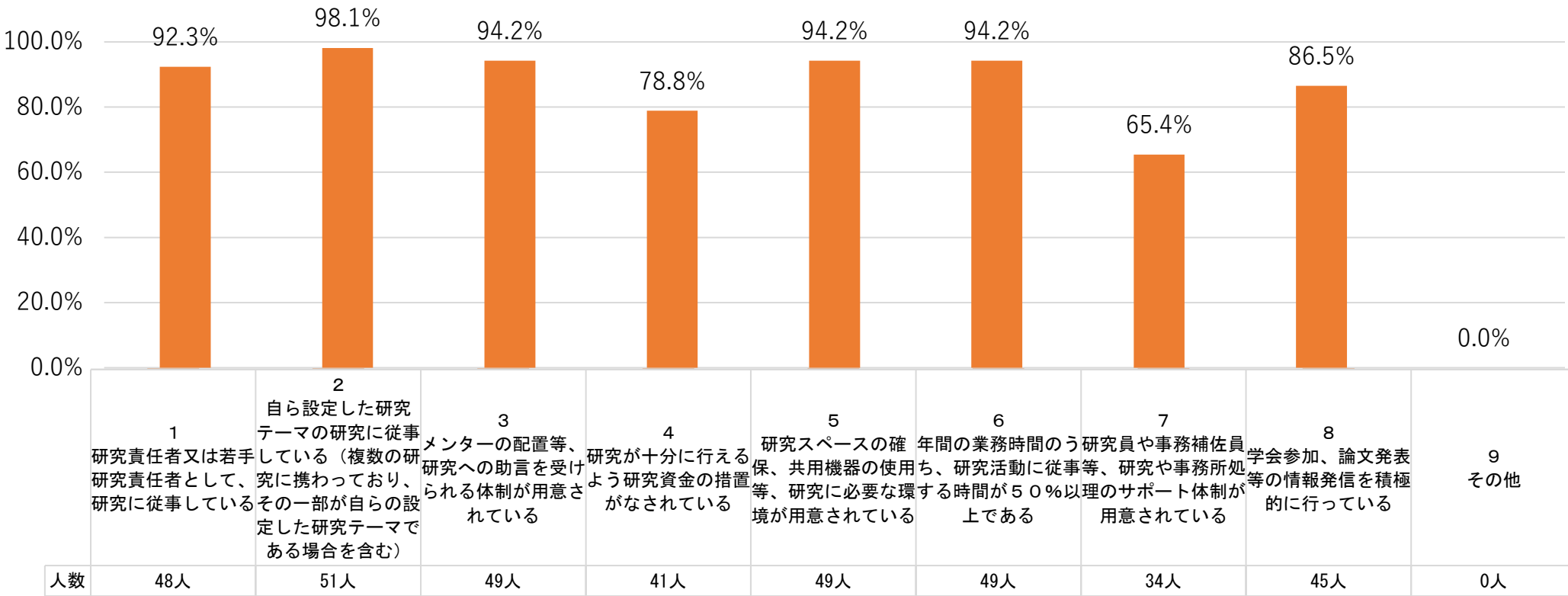
（R3.8実施 対象者数：55名、回答者数：52名（回答率 95%））

○雇用形態について



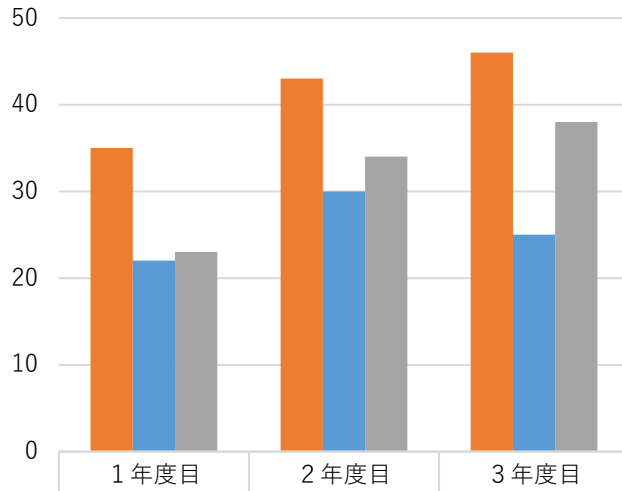
令和3年度卓越研究員事業の追跡調査結果（平成30年度卓越研究員の研究活動状況②）

○研究活動状況について



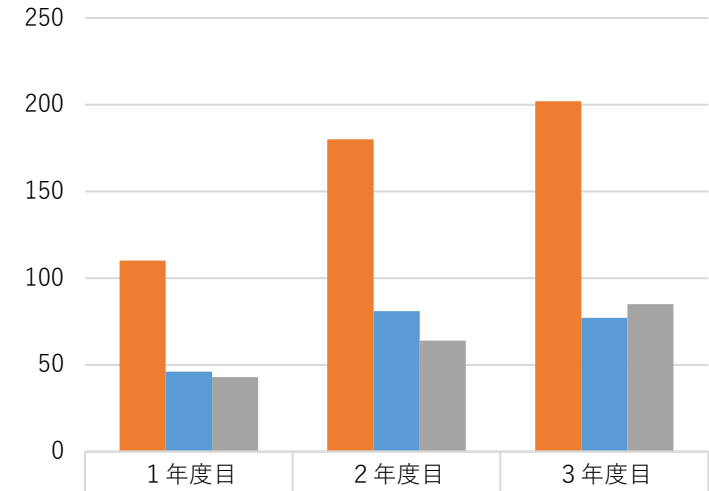
○研究活動実績について（論文発表）

<論文発表人数>



■論文発表人数（人）	35	43	46
■うち、国際共著論文	22	30	25
■うち、第一著者・責任著者	23	34	38

<論文数>



■論文数（件）	110	180	202
■うち、国際共著論文	46	81	77
■うち、第一著者・責任著者	43	64	85

最も学術的価値の高い論文が掲載されたジャーナル名（第一著者・責任著者のみ・3年度目）

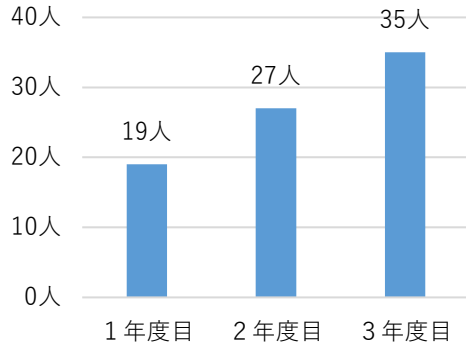
○Accounts of Chemical Research ○ACS Applied Bio Materials ○Analytical Chemistry ○Applied Catalysis B: Environmental ○BMC Med
 ○Cancer Science ○Cellulose ○Cerebral Cortex ○Chemical Communications ○Communications Biology ○Communications Chemistry
 ○Corrosion Science ○Experimental Mathematics ○IEEE Robotics and Automation Letters ○IEEE Trans ○IEEE Transactions on Cloud
 Computing ○IEEE Transactions on Geoscience and Remote Sensing ○J. Am. Chem. Soc. ○J. Mater. Chem. A ○Journal of Algebra
 ○Journal of Anthropological Archaeology ○Nature Communications ○Nutrients ○Peer-to-Peer Networking and Applications ○PHYSICAL
 REVIEW APPLIED ○Physical Review B ○Physical Review Letters ○Physical Review Research ○Plant Physiology ○Proceedings of the
 National Academy of Sciences ○Science and Technology of Advanced Materials ○Science of the Total Environment ○Scientific Data
 ○Sensors ○Sensors and Actuators B: Chemical ○The FEBS Journal ○Transport policy ○応用数理 ○低温科学

令和3年度卓越研究員事業の追跡調査結果（平成30年度卓越研究員の研究活動状況④）

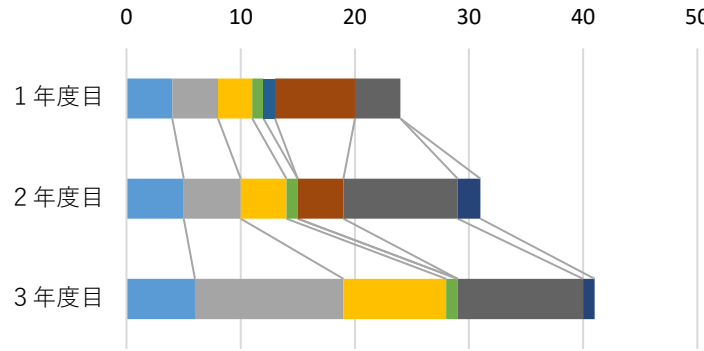
○研究活動実績について（科研費）

※各年度2件まで回答

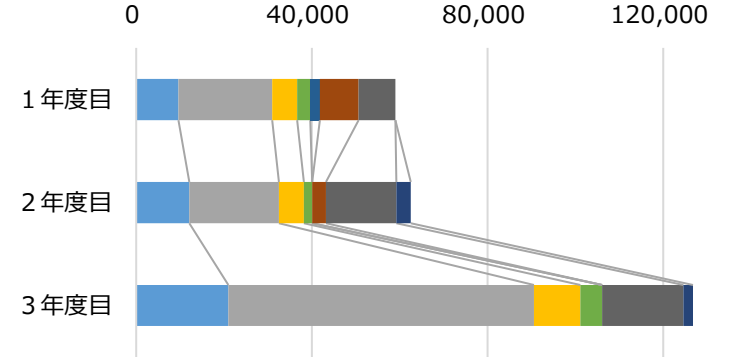
＜獲得人数＞



＜科研費・種目別獲得件数（件）＞



＜科研費・種目別獲得金額（千円）＞



	1年度目	2年度目	3年度目
■ 新学術領域研究	4	5	6
■ 基盤研究(B)	4	5	13
■ 基盤研究(C)	3	4	9
■ 挑戦的研究(萌芽)	1	1	1
■ 若手研究(A)	1	0	0
■ 若手研究(B)	7	4	0
■ 若手研究	4	10	11
■ 研究活動スタート支援	0	2	1

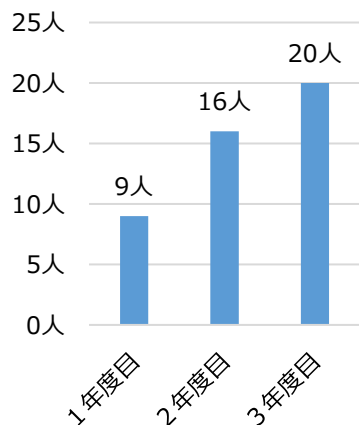
	1年度目	2年度目	3年度目
■ 新学術領域研究	9,620	12,090	20,980
■ 基盤研究(B)	21,350	20,410	69,560
■ 基盤研究(C)	5,680	5,680	10,558
■ 挑戦的研究(萌芽)	3,000	1,900	5,000
■ 若手研究(A)	2,200	0	0
■ 若手研究(B)	8,814	3,160	0
■ 若手研究	8,330	16,000	18,460
■ 研究活動スタート支援	0	3,300	2,200

令和3年度卓越研究員事業の追跡調査結果（平成30年度卓越研究員の研究活動状況⑤）

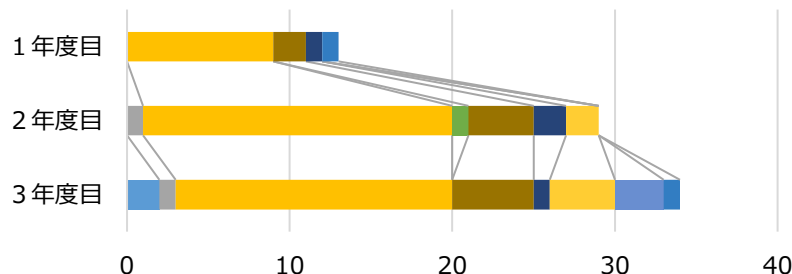
○研究活動実績について（その他外部資金）

※各年度4件まで回答

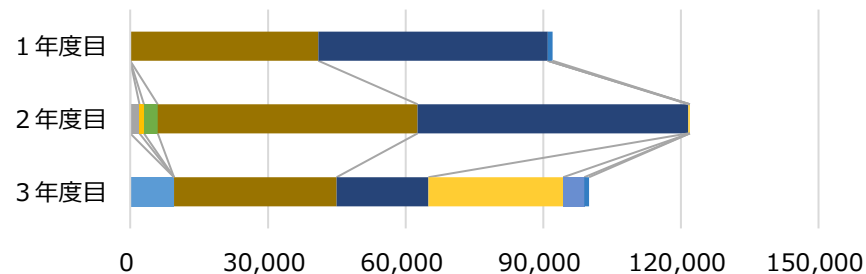
<獲得人数>



<助成団体別獲得件数（件）>



<種目別獲得金額（千円）>



助成団体(3年度目)

○AMED ○JST さきがけ
○JST ムーンショット ○「地域
展開ビジョン2030」アクセラレー
ション事業 ○ROIS-DS-
JOINT 2020 ○UTEC-
Utokyo FSI Research
Grant Program ○アストロ
バイオロジーセンタープロジェクト
研究 ○ホソカワ粉体工学振
興財団令和2年度研究助成
○JST J-RAPID ○研究成
果最適展開支援プログラム A-
STEPトライアウト ○公益財
団法人ロッテ財団 第7回奨励
研究助成 ○公益財団法人
秋山記念生命科学振興財団
研究奨励 ○高橋産業経済
研究財団 ○佐々木環境技
術振興財団・試験研究費助
成 など

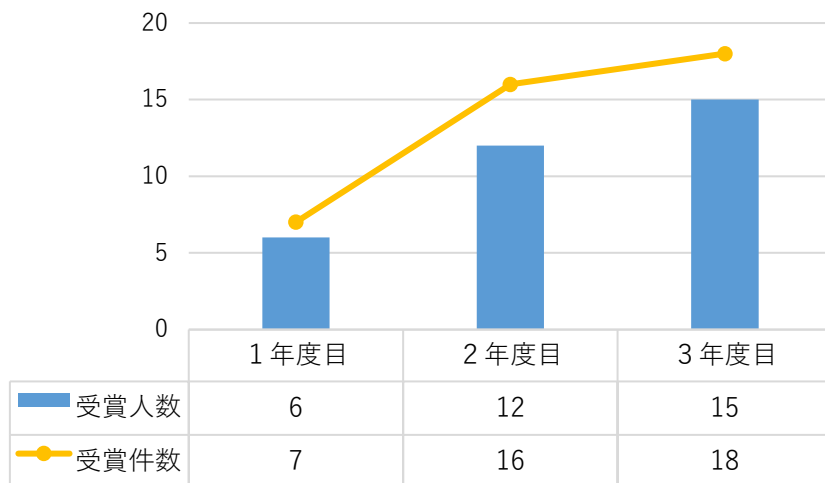
	1年度目	2年度目	3年度目
株式会社	0	0	2
一般財団法人	0	1	1
公益財団法人	9	19	17
特定非営利活動法人	0	1	0
国立研究開発法人 (JST)	2	4	5
国立研究開発法人 (AMED)	1	2	1
国立大学等（所属大 学）	0	2	4
国立大学等（所属 外）	0	0	3
その他・不明	1	0	1

	1年度目	2年度目	3年度目
株式会社	9,500	0	0
一般財団法人	0	2,000	0
公益財団法人	0	1,000	0
特定非営利活動法人	0	3,000	0
国立研究開発法人 (JST)	41,000	56,618	35,447
国立研究開発法人 (AMED)	50,000	59,000	20,000
国立大学等（所属大学）	0	350	29,400
国立大学等（所属外）	0	0	4,600
その他・不明	1,000	0	1,000

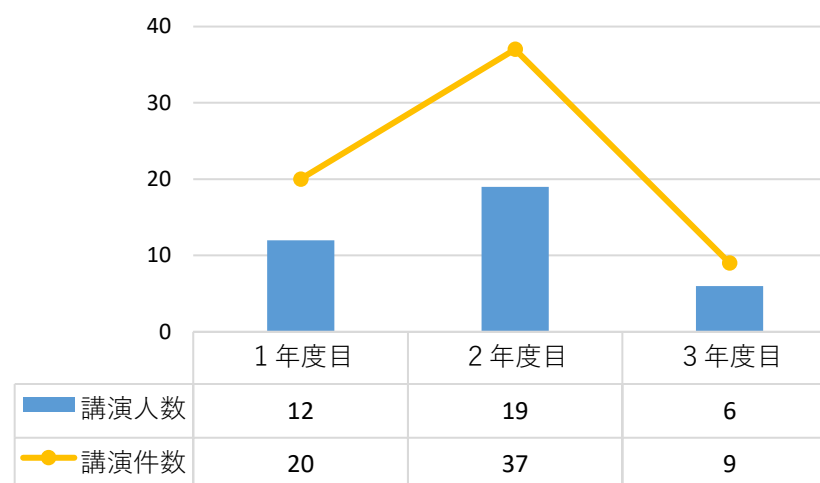
○研究活動実績について（その他）

※各年度3件まで回答

< 受賞歴 >



< 国際会議招待講演 >



賞の名称(3年度目)

○Best Journal Paper Award, IEEE Communications Society Communications Systems Integration & Modeling (CSIM) Technical Committee ○SATMP-20, Best Oral Presentation Award ○The 9th Asia Pacific Outstanding Paper Award, IEEE Communications Society (ComSoc) Asia Pacific Board (APB)
 ○計測自動制御学会 中部支部 支部賞 ○広島大学 2020年度工学部教育顕彰 ○高分子研究奨励賞 ○産総研理事長賞2020 ○進歩賞 (日本化学会) ○生体医工学シンポジウム2020 ポスターアワード ○第70回日本金属学会金属組織写真奨励賞 ○電気通信普及財団賞 テレコムシステム技術賞 ○東京工業大学挑戦的研究賞 ○日本液晶学会論文賞B部門 ○日本心理学会 (国際賞) ○日本蛋白質科学会 若手奨励賞 優秀賞 ○日本薬剤学会奨励賞 ○粉体工学会春季研究発表会奨励賞 (学生) ○文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム 令和2年度「秀でた利用成果」優秀賞 など

その他実績

○特許出願 (9名)
 ○書籍出版 (10名)
 ○共同研究 (7名)
 ○招待講演 (1名)
 ○国際会議での発表 (1名)
 ○ワークショップの主催 (1名)
 ○厚生労働省対策推進本部事務局参与 (クラスター対策班)、沖縄県新型コロナウイルス感染症の抗体検査に係る疫学・統計解析委員会委員長を歴任 など

○主な意見（改善希望事項等）

	意見分類	主な内容
A	制度改善全般に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○他機関に所属している卓越研究員との交流機会があるとよい ○卓越研究員事業の認知度が低い ○企業からの採用がより活発になるようなサポートを導入してほしい
B	ポスト・当事者間交渉・採用後の処遇等に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○受入先機関のテニユアトラック要件が不明確（2件） ○マッチングに際して、事前に就労条件や評価基準等についても研究機関情報として開示してほしい（3件） ○受入先機関との研究エフォート・研究環境の整備・予算措置などのすり合わせが難しい ○受入先機関の設備が整っていない（2件）
C	経費に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○着任初年度の予算について、着任時期によっては短期間で使用しなければならず非効率 ○研究費の支援期間を長くしてほしい ○年度を超えての繰り越しを認めてほしい（2件） ○経費の用途を拡大してほしい（3件）